

Disclosure Management Readmeリリース11.1.2.4.000

リリース 11.1.2.4.000

製作著作 © 2015

目次

目的	1
新機能および拡張機能	1
インストール情報	2
サポートされているプラットフォーム	2
サポートされている言語	2
Disclosure Management-このリリースの固有のサポートされているパス	2
サポートされているこのリリースへのパス	3
このリリースで修正された問題	4
既知の問題	4
ヒントとトラブルシューティング	9
ドキュメントの更新事項	12
アクセシビリティの考慮事項	13

目的

このドキュメントには、このリリースのOracle(R) Hyperion Disclosure Managementに関する重要な最新情報が含まれています。Oracle Hyperion Disclosure Managementをインストールする前に、このReadmeをよくお読みください。

新機能および拡張機能

このリリースのインストール、アーキテクチャおよびデプロイメントの変更に関連する新機能は、*Oracle Enterprise Performance Management System Readme*のこのリリースの新機能に関する項を参照してください。

リリース11.1.2.0、11.1.2.1、11.1.2.2または11.1.2.3からのアップグレードの場合、累積機能概要ツールを使用して、これらのリリース間で追加された新機能のリストを確認します。このツールは、現在の製品、現在のリリース・バージョン、およびターゲット実装のリリース・バージョンを識別します。1回のクリックで、現在のリリースとターゲット・リリースとの間に開発された製品機能の概要のカスタマイズされたセットがツールによってただちに生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1092114.1>

リポジトリ・サポート

リポジトリに行われた拡張機能は次のとおりです:

- バージョン管理—ドキュメントをチェックインするたびに、ドキュメントの新しいバージョンも保存されます。

- チェックイン/チェックアウト/チェックアウトを元に戻す—選択されたドキュメントをチェックアウトして内容を編集し、チェックインして現在のドキュメントに対するすべての更新を保存できるようになりました。また、Disclosure Management管理者役割を持つユーザーもユーザーのチェックアウトを元に戻すことができます。これは、最初にドキュメントをチェックアウトしたユーザーが使用できない場合のためです。
- Disclosure Management管理者役割—新しい役割であるDisclosure Management管理者役割がこのリリースで追加されました。Disclosure Management管理者役割を持つユーザーは、他のユーザーに読取り、書込み、ドキュメントの削除などのアクセス権限を付与できます。
- バージョンの比較—エクスプローラで、旧バージョンと現行バージョンを比較するドックレットを選択できるようになりました。新しい「比較」ボタンをリボンで使用できるようになりました。

タクソノミ・マネージャ

タクソノミ・マネージャは、メモリーからテクソノミをアップロードする機能を提供するようになりました。

確認ペイン

「確認」ペインで、ドックレット・レベルでマッピングをフィルタ処理できるようになりました。

インストール情報

Oracle Enterprise Performance Management System製品のインストールに関する最新情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System* インストールおよび構成Readmeに説明されています。EPM System製品をインストールする前に、この情報をよく確認してください。

サポートされているプラットフォーム

EPM System製品のシステム要件およびサポートされているプラットフォームに関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスでスプレッドシートの形式で入手できます。このマトリックスは、OTNの「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに記載されています：

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

サポートされている言語

EPM System製品でサポートされている言語に関する情報は、*Oracle Enterprise Performance Management System*の動作保証マトリックスの「Translation Support」タブでスプレッドシートの形式で入手できます。このマトリックスは、OTNの「Oracle Fusion Middleware Supported System Configurations」ページに掲載されています：

<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>

Disclosure Management-このリリースの固有のサポートされているパス

下記の3ページの表1の「アップグレード・パスのリリース: 元」列で現在のリリースを検索し、2列目に記載されているアップグレード「先」に従います。

現在のリリースを検索したら、列に記載のリリース以降のアップグレードをすべて行う必要があります。たとえば、現在のリリースが11.1.2.1.113の場合、11.1.2.2.000にアップグレードしてから、11.1.2.2.300にアップグレードし、11.1.2.3.000、リリース11.1.2.4.000の順にアップグレードする必要があります。

表1 Disclosure Managementのサポートされているパス

アップグレード・パスのリリース: 元	先
11.1.2.1.000	11.1.2.1.110
11.1.2.1.110	11.1.2.1.113
11.1.2.1.113	11.1.2.2.000
11.1.2.2.000	11.1.2.2.300
11.1.2.2.300	11.1.2.3.000
11.1.2.3.000	11.1.2.4.000

サポートされているこのリリースへのパス

EPM Systemは、次のリリースからリリース11.1.2.4.000にアップグレードできます:

注意: アップグレードの手順は、Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイドのEPM System製品のアップグレードに関する項を参照してください。

表2 サポートされているこのリリースへのパス

アップグレード・パスのリリース: 元	リリース11.1.2.4へ
11.1.2.x	メンテナンス・リリースを適用してリリース11.1.2.4にします。 Oracle Hyperion Financial Close Managementでは、リリース11.1.2.1からのメンテナンス・リリースの適用のみがサポートされています。
11.1.1.4.x	リリース11.1.2.4にアップグレードします。
リリース11.1.1.0.xから11.1.1.3.x	リリース11.1.1.4にメンテナンス・リリースを適用してリリース11.1.2.4にアップグレードします。
リリース9.3.3.x	リリース11.1.2.3にアップグレードし、メンテナンス・リリースを適用してリリース11.1.2.4にします。
複数のリリースが含まれている環境。1つのOracle Hyperion Shared Servicesのインスタンスが含まれている環境、または2つのShared Servicesのインスタンスが含まれている環境	Oracle Enterprise Performance Management Systemインストールおよび構成ガイドのEPMシステム製品のアップグレードの章に記載されている、複数リリース環境からのアップグレードに関する説明を参照してください。

注意: リリース9.2.0.3+、9.3.0.x、9.3.1.x (Oracle Essbase 9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6および9.3.1.7を除く)または11.1.1.xから開始する場合、まずリリース11.1.1.3にアップグレードしてから、メンテナンス・リリースを適用してリリース11.1.1.4にし、リリース11.1.2.3にアップグレードすることをお勧めします。前のリリースから開始する場合、開始するリリースからのアップグレードを直接サポートしている最高レベルのリリースにアップグレードすることをお勧めします。

EssbaseとShared Servicesとの間のセキュリティの同期は、リリース9.3.1.4.1以降のEssbaseリリース9.3では削除されていました。ただし、EssbaseおよびOracle Hyperion Shared Servicesリリース11.1.1.3では、セキュリティ情報は同期されます。この理由で、Oracle Essbaseリリース9.3.1.4.1、9.3.1.5、9.3.1.6または9.3.1.7を使用している場合、まずリリース9.3.3にすべての製品をアップグレードしてから、リリース11.1.2.3にアップグレードし、メンテナンス・リリースを適用してリリース11.1.2.4にする必要があります。

このリリースで修正された問題

この項には、リリース11.1.2.4.000で修正された不具合が含まれます。以前のリリース間で修正された不具合のリストを確認するには、修正済み不具合のファインダを使用します。このツールでは、ユーザーが所有する製品と現在の実装リリースが識別されます。1回のクリックで、修正された不具合の説明とこれに関連するプラットフォームおよびパッチ番号が含まれた、カスタマイズされたレポートがツールによってただちに生成されます。このツールはこちらにあります:

<https://support.oracle.com/oip/faces/secure/km/DocumentDisplay.jspx?id=1292603.1>

- 18588787 - レポートをインポートする場合にDB2データベース・エラーが発生します。
- 18808598 - 孤立した脚注により、SEC XBRL検証エラーが発生します。
- 18821550 - 開示テキスト・ブロックがXBRL公開に対して完全に生成されていません。
- 18889542 - 表示された開示ノートの一部のライン・アイテムに余分な空白が表示されます。
- 18513339 - PDFを生成できませんでした。
- 18614710 - メッセージ「マップされたデータがありません」が「確認」ペインに表示される場合があります。
- 18339513 - 確認マネージャでのマッピングのページングを許可します。
- 18112813 - 「保存」をクリックした後にディメンション・メンバーが表示されなくなります。
- 18483817 - EDGARの生成された出力にXHTMLの無効な属性が含まれます。
- 18483907 - EDGAR SEC HTML検証が一部のXHTMLエラーをレポートしていません。
- 18270163 - PDFに公開した後、タグが付けられたドクレットがマスター・ドキュメントに見つかりません。
- 18561338 - タクソノミ・マネージャおよびDisclosure Managementマッピング・ツールに異なるタクソノミが表示されません。
- 19227897 - タクソノミ・マネージャのタクソノミのリストにタクソノミが表示されません。
- 19475839 - zipファイル内にネストされたフォルダを持つタクソノミが正しくアップロードされません。

既知の問題

このリリースでの注意すべき既知の問題は、次のとおりです。

- 20386953 - 一部の英語以外のロケールで、WebLogicからDisclosure Managementを起動すると、Oracle Hyperion Disclosure Managementが実行されますが、デプロイに失敗します。MIDDLEWARE-HOME/user_projects/epmsystem1/DisclosureManagement/discman1があるかどうかを確認してください。存在しない場合、次の回避策を実行してください: MIDDLEWARE_HOME/EPMSys11R1/products/DisclosureManagement/DiscManInstanceをMIDDLEWARE-HOME/user_projects/epmsystem1/DisclosureManagement/discman1にコピーします。Disclosure Managementサービスを再起動します。
- 20263861 - Windows 8.0以上で.NET 3.5がインストールされません。

回避策: デフォルトでWindows 8および8.1は.NET 3.5をインストールしません。.NET 4.5のみインストールします。Windows 8および8.1で.NET 3.5インストールを確認し、インストールを有効にする必要があります。

- 20130269 - 相対パスは大/小文字を区別すべきではありません。

Linuxプラットフォームは大文字と小文字を区別することに注意してください。

- 20077940 - チャートをExcelおよびPowerPointの両方で開いている場合、Excelのレポート・コンテンツが空になります。

Disclosure Management拡張機能を無効にします。

- 20034319 - XBRL出力にSECプレビューアに正しく表示されないノート表が含まれています。

回避策: ノート表を正しく表示するには:

1. **Microsoft**レジストリ・エディタ(regedit.exe)を実行します。
2. **HKEY_CURRENT_USER\Software\Oracle\Disclosure Management**フォルダに移動します。
3. **XBRLGenerationWithEDGAR**設定をハイライトしてクリックし、値を「**False**」に変更します。
4. **MS Word**を再起動します。

新しい設定が後続のインスタンスの生成に使用されます。

- 19782721 - スクリプト・エラー「プロパティgetpeerを取得できません」が発生します。

回避策: リーフ(子を持たないノード)・ノードが選択される場合のみ、このエラーが発生します。これが発生する場合、ダイアログの「はい」をクリックします。機能は損なわれません。

- 19782721 - スクリプト・エラー「プロパティgetpeerを取得できません」が発生します。

回避策: リーフ(子を持たないノード)・ノードが選択される場合のみ、このエラーが発生します。これが発生する場合、ダイアログの「はい」をクリックします。機能は損なわれません。

- 19614666 - 「現在のマッピング」および「フォーマット」タブがチェックイン後にアクティブなままです。

回避策 - 「確認」タブの別のマッピングを選択します。その後、「現在のマッピング」タブの編集モードが無効になります。

- 19529877 - リポジトリ・エクスプローラからドックレット・バージョンを開く場合にマッピングが発生しません。

回避策: バージョンを上げてください。マッピングが最初のバージョンに現れます。

- 19404183 - 重複する変数名を作成する場合に警告が発生しません。
- 19385267 - 「forever」コンテキストがUS GAAPプレビューに1/1/0001として表示されます。
- 19375172 - グローバル検索がパターン内に空白を含むレコードを戻します。

グローバル検索は、ラベルではなく概念名で実行されます。たとえば、「land」は「TransitionalAndOtherEmployeeRelatedCost」概念名の一部です。

また、検索が大文字と小文字を区別しないため、「land」はAが大文字でも「TransitionalAndOtherEmployeeRelatedCost」を戻します。

- 19248001 - 「確認」および「検証」タブの(Excelへの)エクスポートにより、Internet Explorerファイル・ダウンロード・メッセージが表示されます。

デフォルトでは、デフォルトのセキュリティ・ポリシーに準拠してInternet Explorerを使用したファイルのダウンロードが無効になっています。ファイルをローカルにダウンロードし、FTP経由でサーバーに転送できます。または、Internet Explorerでファイルのダウンロードを有効にできます。

- 19181124 - 再配置した後にドックレットが重なっています。
- 19074206 - ドキュメント・コンテンツにレポート・オブジェクトを挿入してリフレッシュした後にExcelがクラッシュします。
- 18939591 - ExcelドックレットをExcelから開くことができません(Smart Viewがメニューにありません)。

孤立したExcelプロセスが存在する場合のみ、この問題が発生します。孤立したExcelプロセスを削除する場合、リポジトリからExcelドックレットを開く場合にメニュー・アイテムが表示されます。

- 18917435 - 「マッピングの除去」を使用した後に黄色のハイライトが残ります。

回避策: WordまたはExcelフォーマットを使用して、再度アイテムからハイライトを削除します。

- 18865259 - ドックレットからのマッピングがマスター・ドキュメントに伝播しません。

回避策: 最初にドックレットをチェックアウトし、コンテンツを変更してから、リポジトリにドックレットを戻してチェックインします。次に、マスター・ドキュメントのドックレットをリフレッシュします。

その時点で、マスター・ドキュメントのブックマークがリフレッシュされ、欠落したマッピングが見つかります。

マスター・ドキュメントのドックレットからマッピングがまだ表示されない場合、ドックレットのバージョンを上げて、マスター・ドキュメントにリフレッシュしてください。

- 18848967 - 「現在のマッピング」タブで「保存」をクリックした後にダブルを使用できません。

回避策: 再度「確認」ペインをリフレッシュします。

- 18842920 - ユーザーがドキュメントを切り替える場合に検証警告メッセージが失われます。

回避策: 「検証」タブから切り替えて再度戻します。

- 18801065 - 異なるユーザーの接続により、ダウンロード・オプションのプロンプトが表示されます。
- 18663470 - readmeおよびDisclosure Managementユーザー・ガイドのWordドックレットの手順をマップするブックマークのオンを追加します。

ブックマークをオンにするには:

1. 「オプション」、詳細の順に選択します。
2. ブックマーク表示の確認を選択します。

上の手順がDisclosure Managementユーザー・ガイドの第7章「マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作」のドックレットの追加に関する項にも追加されています。

- 18588787 - レポートをインポートする場合にDB2データベース・エラーが発生します。

Disclosure ManagementにDB2を使用する場合、使用されるDB2データベースが少なくとも8Kのページ・サイズを使用するように構成されていることを確認します。

- 18538952 - 顧客10kレポートのロールオーバー操作でエラーがレポートされました。

エクスポートされた2013年の10Kレポート全体をローカル・ドライブにコピーし、再度ロールオーバーを実行します。ロールオーバー2014年10Kレポート・フォルダのローカル・フォルダを選択します。

- 18363460 - リリース11.1.2.3.000のパッチ・セット更新(PSU) 11.1.2.3.500のADFの最新バージョンにより、マッピング・ツールが固定されます。

「Smart View」パネルがフローティングのウィンドウになる右側のパネルからドラッグされた場合にこの問題が発生します。「Smart View」パネルが右側のペインにスナップされて戻る場合、この問題は発生しません。

- 18030560 - スタンドアロン・レポートとして保存されたドックレットの移行を許可する必要があります。

異なる環境からドキュメントを移行できません。移行は、インプレース・アップグレードでのみ動作します。

- 17974009 - Firefox 24のワークスペースからFinancial Reportingデータをマップできません。
- 17791799 - 不正なタクソノミ名がマッピング・ツールのユーザー・インタフェースで表示されています。
- 17768126 - マスター・ドキュメントの適切な順序でドックレットを並べ替えることができませんでした

Word 2013の回避策のみ: Word 2013で、次のオプションが有効であると「すべてリフレッシュ」機能に失敗する場合があります。

- 読取りレビューで電子メールの添付ファイルおよび他の編集できないファイルを開きます。
- このアプリケーションの起動時に「スタート」画面を表示します。

これらの設定を無効にするには:

1. Word 2013で、「ファイル」に移動し、「オプション」を選択します。
 2. 「全般」タブを選択します。
 2. 「このアプリケーションの起動時にスタート画面を表示する」オプションを無効にします。
- 17639078 - ドックレットの非表示が設計上非表示になりません。

*Disclosure Management*ユーザー・ガイドの第7章「マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作」のマスター・ドキュメントのドックレットの非表示に関する項が変更され、ドックレットを非表示にする手順が明確になりました。

トピックは次のようになります: 「ドックレットのコンテンツを非表示にしても、そのドックレットのXBRLマッピングは保持され、生成されたXBRLインスタンスに含まれます。コンテンツはマスター・ドキュメントに表示されたままになります。」

以前は、次のような内容でした: 「マスター・ドキュメントおよび生成された出力で、ドックレットの表示コンテンツを非表示にすることができます。ドックレットのコンテンツを非表示にしても、そのドックレットのXBRLマッピングは保持され、生成されたXBRLインスタンスに含まれます。」

- 17516688 - レポート・パスが256文字より大きい場合にレポートをインポートできません。

この制限はオペレーティング・システムの制限です。

- 17503111 - すべてのハイパーリンクがIXBRLのコンテンツのWord表に生成されません。

回避策: Word目次機能のかわりにDisclosure Management参照変数を使用します。

- 17156808 - Firefox 22で概念マッピングをアタッチできません。
- 17064057 - 問合せ対応モードでWeb Analysisレポートを開くとExcelがクラッシュします。
- 17018518 - Blk - ExcelでBI+レポートを開くと「hypofficeaddinmanager::selectreport」が発生します。
- 17004579 - Microsoft OfficeでDisclosure Managementレポートを再オープンすると余分なパネルが表示されます。

回避策: 余分なパネルを閉じます。

- 16814411 - 以前のアップロードに失敗した後に正しいタクソノミ・アーカイブをアップロードできません。

回避策: mappingtool.propertiesファイルで、WLS UPLOAD_MAX_MEMORYおよびUPLOAD_MAX_DISK_SPACEプロパティのMAX_SIZE設定を100MBに増やします。

- 16568710 - Edgar: 列が生成されたHTML出力に正しく従っていません。
- 16362561 - Edgar: 表の自動サイズ・プロパティは、望まないHTML出力が生成される場合があります。

回避策: EDGAR HTML出力に表示する方法でExcelワークシートの表のセルをフォーマットします。

- 16303807 - 静的変数を使用したドックレットの削除およびマスター・ドキュメントへの追加でエラーが発生する場合があります。

回避策: マスター・ドキュメントから静的変数を削除し、ドックレットを再追加します。

- 16249022 - ハイパーリンク・マッピングはpsu300からps3のエクスポートおよびインポート時に評価されません。

ハイパーリンク・マッピングは常にプレースホルダ・モードのままです。この問題はExcelスタンドアロン・ドキュメントおよびExcelドックレットで検出されます。ハイパーリンク・マッピングがマスター・ドキュメントおよびWordドックレットで正常に評価されます。

- 16191210 - 「変数」タブでのマスター・ドキュメントからのドックレット・ハイパーリンク・マッピングの削除に一貫性がありません。

Wordドックレットの最後にハイパーリンクがあり、その後に空白またはテキストがない場合(つまり、ドックレットの最後のブックマークと変数マッピングが一致する場合)にのみ、この問題が発生します。

- 16068596 - 不明なディメンション構造が予期しないコンテキストの関連付けを生成する場合があります。

同じディメンション・メンバーが同じ拡張リンク内の2つ以上の軸に表示されるようにタクソミを定義できる場合があります。これは一般的ではありませんが、このパターンが一部のタクソミで確認され、インスタンス・ドキュメントの生成時に予期しないコンテキストの関連付けが生成されます。

- 14646681 - 一部の文字列の折返しオプションでは、イメージの参照変数を作成できません。
- 14641285 - 最初の行に変数マッピングを使用した表がドックレットに含まれる場合にドックレット追加例外が発生します。
- 14622549 - プライベート接続を使用して関数グリッドを挿入できません(一貫性のない動作)。
- 13708796 - タクソミ・デザイナーで拡張リンクを作成できません。

回避策:

拡張リンクを表示するには:

1. 「タクソミプロパティ」パネルで「リンクベース」(「...」ボタン)をクリックします。
 2. 拡張リンクを追加したノードを展開します。
 3. 以前に追加した拡張リンクをクリックします。(拡張リンクには、追加した拡張リンクの名前ではなく、「デフォルト・リンク」という名前がついています。)
 4. 右側で、「役割名」を拡張リンクの追加時に作成した名前に変更します。
 5. 「x」をクリックします。
- 10312949 - タクソミ・デザイナーでアーク役割タイプが欠落しています。

回避策: これはソフトウェア内の既知の問題です。また、タクソミ・デザイナーの新しいバージョンで修正されています。

欠落しているアーク役割タイプを表示するには:

1. タクソミ・デザイナーでタクソミを開き、「定義ビュー」に切り替えます(「表示」、「定義」、「すべてのアーク役割の表示」の順に選択します)。
2. ディメンション・メンバーを追加する拡張リンク・ノードを開きます。
3. 「要素リスト」ペインで、追加する必要があるディメンション・メンバーを見つけて選択します。
4. メンバーを適切なノードにドラッグ・アンド・ドロップします。
5. 「アーク役割の選択」ウィンドウから、一般から特別を選択します。(このアーク役割は一時的なものであることに注意してください。)
6. ツリー・ビューから、新しく追加したアイテムを選択します。
7. (右下隅の)「要素」パネルに切り替えます。
8. 「選択した親リンク」プロパティを展開します。
9. 「役割」プロパティをクリックします。(一般から特別の横にあるドロップダウンの矢印に注意してください。)
10. ドロップダウンの矢印をクリックし、「**member-domain**」を選択します。
11. すべてのディメンション・メンバーについて、必要に応じて繰り返します。

ヒントとトラブルシューティング

13816946 - タクソミのロード中のタクソミ・デザイナのレポート・エラー

2009リンクベース役割レジストリ(LRR)を使用するタクソミの作成中、Disclosure Managementタクソミ・デザイナ(TD)で、反転(negated)ラベルに関連した不適切なエラーがレポートされる場合があります。リリース11.1.2.1.111のDisclosure Managementでは、LRR内で定義されたすべての役割がタクソミ・デザイナで認識されるわけではありません。

LRR役割の完全なセットは、公開タクソミ用に設計されており、オンライン(<http://www.xbrl.org/lrr/lrr.xml>)で定義されています。

タクソミ拡張でこれらのLRR役割が1つ以上使用されている場合、タクソミ・デザイナでは、反転ラベルに関連するロードについて不適切なエラーがレポートされる場合があります。たとえば、次のエラーがレポートされる場合があります:

1. 要素us-gaap:StockholdersEquityAbstractで使用される<http://www.xbrl.org/2009/role/negatedLabel>の役割定義がありません->表示アークのus-gaap:TreasuryStockValue preferredLabel役割
2. 要素us-gaap:IncomeTaxExpenseBenefitAbstractで使用される<http://www.xbrl.org/2009/role/negatedTotalLabel>の役割定義がありません->表示アークのus-gaap:TreasuryStockValue preferredLabel役割
3. 要素us-gaap:DiscontinuedOperationsAndDisposalGroupsAbstractで使用される<http://www.xbrl.org/2009/role/negatedNetLabel>->表示アークのus-gaap:DiscontinuedOperationTaxEffectOfIncomeLossFromDisposalOfDiscontinuedOperation preferredLabel役割

US-GAAPタクソミでは、同等の反転ラベル役割が提供されているため、タクソミ拡張で各LRR役割を同等のUS GAAP役割と置き換えることで、これらのエラーを回避できます。SECは、EDGAR Filing Manual v18のガイドラインのセットに従って、いずれかのラベル役割の作成を受け入れます。

次に示すLRR反転ラベル役割からUS GAAP反転ラベル役割へのマッピングを使用して、タクソミ拡張を修正することができます:

表3 LRR反転ラベル役割

LLR反転ラベル	US-GAAP同等
http://www.xbrl.org/2009/role/negatedLabel	http://xbrl.us/us-gaap/role/negated
http://www.xbrl.org/2009/role/negatedPeriodEndLabel	http://xbrl.us/us-gaap/role/negatedPeriodEnd
http://www.xbrl.org/2009/role/negatedPeriodStartLabel	http://xbrl.us/us-gaap/role/negatedPeriodStart
http://www.xbrl.org/2009/role/negatedTotalLabel	http://xbrl.us/us-gaap/role/negatedTotal

タクソミ拡張の役割の用途を変更する場合、タクソミ・デザイナで次のステップを実行します:

1. 現在のXBRLMetadata.xmlファイルのバックアップ・コピーを作成します。
2. XBRLタクソミ・デザイナ・インストール・フォルダにあるXBRLMetadata.xmlファイルに次のLabelRolesを追加します。このファイルは、通常、c:\Program Files\Oracle\Disclosure Management\XBRL Taxonomy Designer metadata\の下にあります。

```
<LabelRole>
```

```
<SortOrder>25</SortOrder>
```

```

<Type>Label</Type>

<URI21>http://www.xbrl.org/2009/role/negatedLabel</URI21>

<Name>Negated Label</Name>

<Documentation>Negated</Documentation>

</LabelRole>

<LabelRole>

<SortOrder>26</SortOrder>

<Type>Label</Type>

<URI21>http://www.xbrl.org/2009/role/negatedTotalLabel</URI21>

<Name>Negated Total Label</Name>

<Documentation>Negated Total</Documentation>

</LabelRole>

<LabelRole>

<SortOrder>27</SortOrder>

<Type>Label</Type>

<URI21>http://www.xbrl.org/2009/role/negatedNetLabel</URI21>

<Name>Negated Net Label</Name>

<Documentation>Negated Net</Documentation>

</LabelRole>

```



注:

ソート順は、定義済のlabelRolesの数によって、顧客ごとに異なる場合があります。

3. 対応する役割のURI参照をラベル・リンクベース・ファイル(通常、末尾が*_lab.xmlのファイル)に追加します。たとえば、役割のURIをnegatedLabel、negatedTotalLabelおよびnegatedNetLabelに追加します:

```

<linkbase xmlns=http://www.xbrl.org/2003/linkbase"

xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"

xmlns:xlink="http://www.w3.org/1999/xlink"

xsi:schemaLocation="http://www.xbrl.org/2003/linkbase

http://www.xbrl.org/2003/xbrl-linkbase-2003-12-31.xsd">

```

. . .
. . .

```
<roleRef xlink:type="simple"
xlink:href="http://www.xbrl.org/lrr/role/negated-2009-12-16.xsd#negatedTotalLabel"
roleURI="http://www.xbrl.org/2009/role/negatedTotalLabel" />

<roleRef xlink:type="simple"
xlink:href="http://www.xbrl.org/lrr/role/negated-2009-12-16.xsd#negatedTotalLabel"
roleURI="http://www.xbrl.org/2009/role/negatedTotalLabel" />

<roleRef xlink:type="simple"
xlink:href="http://www.xbrl.org/lrr/role/negated-2009-12-16.xsd#negatedNetLabel"
roleURI="http://www.xbrl.org/2009/role/negatedNetLabel" />
```

13720849 - コンテキスト、単位および脚注のマッピングを添付できません。

これは設計どおりです。11.1.2.2.00以降、XBRL概念ですでにタグ付けされているコンテンツでのみコンテキスト、単位、脚注を適用できます(データソースのマッピングに関連しません)。

13735891 - ドックレットで変更履歴機能を有効にすると、ドックレットに埋め込まれたすべての変更マークアップが、マスター・ドキュメントによってインポートされます。

Microsoft Wordの変更履歴機能を使用すると、インスタンス・ドキュメントの生成および検証中に問題が発生する場合があります。また、Wordドックレットで変更履歴機能を有効にすると、ドックレットに埋め込まれたすべての変更マークアップが、マスター・ドキュメントによってインポートされます。

これは、検証およびインスタンスの生成のルーチンで問題となる場合があります。たとえば、マップされた値123の2が4で置き換えられた場合(したがって、新しい値は143)、変更マークアップを含む数値は、インスタンス・ドキュメント内で1423と表示され、それが検証されます。

この動作を回避するために、2つの解決策があります。

1. 変更履歴機能を無効にします。「確認」メニューですべての変更の受入れオプションを選択し、変更履歴機能を無効にします。これによってすべての変更がコミットされ、Wordのドックレットから完全にマークアップが削除されます。
2. インスタンス・ドキュメントの生成または検証を実行する前に、変更履歴モードが、「最終版: 変更箇所/コメントの表示」(ドキュメントを開いたときのデフォルト)から「最終版」に変更されていることを確認します。「最終版」バージョンのみが、マスター・ドキュメントにインポートされるようにする必要があります。



注:

2番目の解決策は、マークアップがマスター・ドキュメントに追加されないようにするものではありません。インスタンス・ドキュメントの生成、および検証に関連する問題の解決のみが行われます。

13881476 - Disclosure Management JVMヒープ設定の場所に関するドキュメントのリクエスト。

サーバーに十分なメモリーがある場合、Disclosure Managementアプリケーション・サーバーの最大Javaヒープ・サイズを1280以上に設定することを検討してください。

14711299 - iXBRLビューア・エラー。ビューアに完全なレポート・ドキュメントが表示されません。

生成されたDMR iXBRLレポートを解凍し、Firefoxでレポートをレンダリングします。この問題は、Internet Explorerでのみ起こります。

14752214 - HTMLをEDGAR Webサイトに送信する際に検証エラーが発生します。

EDGAR検証Webサイトでは、テスト・ファイルにグラフィックが含まれている場合、検証エラーが表示される場合があります。グラフィックが検証Webサイトに含まれる場合、[file_name.htm]で外部参照が不適切です。[IMG src="graphic_0.jpg"]参照の指定が不適切です。というエラーが表示される場合があります。このエラーは誤りで、送信が拒否されることはありません。

16537064 -- Smart Viewは、Office製品のインストールおよび使用でMicrosoftの「クリックして実行」テクノロジーをサポートしていません。

「クリックして実行」を使用してOffice製品がインストールされた場合、ドックレットのリフレッシュまたは挿入時にエラーが発生します。

ドキュメントの更新事項

ここでは、ドキュメントの更新事項について説明します。

ブックマークの有効化

ドックレットに変更を加えた際に、ドックレット内のすべての値を再マップしなくても済むようにするには、ブックマークをオンにします。手順がDisclosure Managementユーザー・ガイドの第7章「マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作」のドックレットの追加に関する項にも追加されています。(18663470)

▶ マッピングのブックマークをオンにするには:

1. 「オプション」、詳細の順に選択します。
2. ブックマーク表示の確認を選択します。

ドックレットの非表示

Oracle Hyperion Disclosure Managementユーザー・ガイドの第7章「マスター・ドキュメントおよびドックレットの操作」のドックレットの非表示に関する項が変更され、ドックレットを非表示にする手順が明確になりました。

トピックは次のようになります:「ドックレットのコンテンツを非表示にしても、そのドックレットのXBRLマッピングは保持され、生成されたXBRLインスタンスに含められます。コンテンツはマスター・ドキュメントに表示されたままになります。」

以前は、次のような内容でした:「マスター・ドキュメントおよび生成された出力で、ドックレットの表示コンテンツを非表示にすることができます。ドックレットのコンテンツを非表示にしても、そのドックレットのXBRLマッピングは保持され、生成されたXBRLインスタンスに含められます。」

EPM System製品ドキュメントへのアクセス

各EPM System製品ガイドの最新バージョンは、OTN Webサイト(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)の「EPM System Documentation」領域からダウンロードまたは表示できます。EPM System Documentation Portal (<http://www.oracle.com/us/solutions/ent-performance-bi/technical-information-147174.html>)を使用することもでき、ここからもEPM Supported Platform Matrices、My Oracle Supportおよびその他の情報リソースにリンクできます。

デプロイメント関連のドキュメントは、Oracle Software Delivery Cloud Webサイト(http://edelivery.oracle.com/EPD/WelcomePage/get_form)からも入手できます。

個別の製品ガイドは、Oracle Technology Network Webサイトからのみダウンロードできます。

PDFからのコード・スニペットのコピーと貼付け

PDFファイルからコード・スニペットを切り取って貼り付ける際、貼付け操作時に一部の文字が失われる場合があります、これによりコード・スニペットが無効になります。回避策: コード・スニペットをHTMLバージョンのドキュメントから切り取って貼り付けます。

ドキュメントのフィードバック

製品のドキュメントに対するフィードバックは、次の電子メール・アドレスにお送りください。

EPMdoc_ww@oracle.com

次のソーシャル・メディア・サイトのEPM情報開発をフォローしてください。

- YouTube - <http://www.youtube.com/user/OracleEPMWebcasts>
- Google+ - <https://plus.google.com/106915048672979407731>
- Twitter - <https://twitter.com/HyperionEPMInfo>
- Facebook - <https://www.facebook.com/pages/Hyperion-EPM-Info/102682103112642>
- Linked In - http://www.linkedin.com/groups?home=&gid=3127051&trk=anet_ug_hm

アクセシビリティの考慮事項

オラクル社では、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントをご利用いただけることを目標としています。EPM System製品は、製品のアクセシビリティ・ガイドに記載されているアクセシビリティの機能をサポートします。このガイドの最新版は、Oracle Technology NetworkのOracle Enterprise Performance Management Systemドキュメント・ライブラリ(<http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html>)にあります。

また、このReadmeファイルはHTML形式で提供され、アクセシビリティ機能がサポートされます。

著作権情報

Oracle® Hyperion Disclosure Management Readme,
Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporationおよびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様とOracle Corporationとの間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporationおよびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

